

**「(仮称) 滋賀の県立高等学校魅力化プラン」の検討に係る地域別協議会  
大津地域 結果概要**

**1 会議の日時等**

開催日時 令和4年10月31日(月) 15:00~16:25 (大津合同庁舎7A会議室)

出席者	市町	氏名				
	大津市	北崎祐慈	中野啓一	人見和宏	松代 弘	後藤祐紀

(敬称略)

◇滋賀の県立高等学校の魅力化について

**2 出席者からの主な意見**

①	それぞれの高校が、5つの重点で整理されているので分かりやすい。中学生にとっては、各高校の特色を考えながら高校選択しやすい。
②	特別な教育的支援が必要な生徒が高校に入学している割合が上昇していることから、そのような生徒の受け入れに特化した全日制高校があると、中学校としては安心して生徒を送ることができる。
③	大阪のエンパワメントスクールでは多様な生徒が入学しており、国数英では基礎基本を重視した30分授業に取り組んでいる。特別な教育的支援が必要な生徒も多いが、皆のびのびと学校生活を送っている。
④	大津市では、高校と連携して一緒にまちづくり等を考える取組を行っている。高校と市が連携した取組は、市の職員や高校の教職員の情熱に頼っているところがあるので、連携のプラットフォームがあれば地域連携の取組はさらに進むのではないかと。
⑤	まちづくりの現状や課題を知らない高校生が多い。市町と高校が連携した取組を進める前に、高校の学びの中で社会人教育を進めてもらいたい。地道だが、それが高校の魅力づくりにつながるのではないかと。
⑥	この「基本方針」や「県立高校の魅力化の方向性(全体イメージ)」等は、多くの方々の意見を取り入れて作られたものだと感じている。近年、中学3年生だけでなく、中学2年生も高校への関心が高い。
⑦	全国的に人口減少が進んでいるが、一部の市町では増加している。人口を増やし子どもの数を増やす取組が、高校の活性化につながる。
⑧	近年、仕事に対する耐性が低い社会人が多い。小中高で先生に怒られる機会が少ないことが原因の一つと考えられる。小中高では、社会で通用する力の育成に取り組んでほしい。
⑨	大津市内の中学生にとっては、県立高校や京都私学等、高校選択の幅は広い。また、近年、広域通信制高校の人気が高まっており、中学生にとって様々な学び方ができることが魅力の1つということではないかと。魅力化プランの中で、様々な学び方ができることを示すことも考えられる。
⑩	中学生は、学びたいこと、したい部活動、通学時間等を考えて高校選択しており、県立・私立や県内・県外の垣根なく選択している。
⑪	スポーツに秀でた生徒は、多くの高校からスカウトの問い合わせが来る。部活動に特化すれば、選ばれる高校になるのではないかと。
⑫	授業料免除等もあり、私立高校に魅力を感じている生徒は多いように感じている。
⑬	公立の小中学校では、自分たちが住んでいるところが地域・郷土と捉えているが、全県一区制度において、高校生は自分の高校が所在する地域の魅力をどう感じているのか。高校生であれば、広い視野で地域を捉えているのではないかと。

⑭	小中学校ではキャリアパスポートを活用しており、中学校と高校との連携を進めていく上でキャリアパスポートの活用は重要になってくる。高校でのキャリアパスポートの活用の仕方が分かれば、小中学校での活動の工夫が見えてくる。
⑮	小中学校では、キャリア教育をベースに地域を知り地域と交流する取組がある。高校でも、地域と交流する取組を魅力化プランの中で示せればいいのではないか。
⑯	通信制高校は、不登校傾向にある生徒の受け皿にもなっており、卒業するまで支えてもらえるのでありがたい。
⑰	以前は、第一希望は全日制で、不合格なら定時制や通信制に進学する生徒が多かったが、近年は、学費等の問題がなければ第一希望から広域通信制高校を志望する生徒がいる。生徒が不登校になる要因は様々だが、学校の制度になじめず力を発揮できなかった子どもたちなので、集団の中では生活しにくい生徒のニーズはあると感じている。
⑱	不登校生徒や特別な教育的支援が必要な生徒等への支援について、各高校の取組を周知するとともに、中学校と高校、市教育委員会と県教育委員会がしっかり連携していくことで、生徒や保護者にとって安心した高校選択につながる。
⑲	魅力化プランの「特徴となる学び等」が、しっかり中学生に伝わるかが重要になる。広報の方法も検討の材料ではないか。
⑳	音楽科や美術科は、普通科では学ぶことができない高い専門性が魅力ではないか。どんな取組も人の目に触れないとその魅力は伝わらないので、地域での発表の機会を重視すべきではないか。
㉑	石山高校音楽科を卒業して活躍している方は多い。県内唯一の音楽科であり、将来の音楽家を目指す子どもたちのために残してほしい。ただ、音楽科を志望する生徒は少ない状況にあることから、志望者を増やすために何が足りないのか、入学者選抜の内容等についても検討が必要ではないか。
㉒	音楽のように専門性の高い学びを求める子どもにとって、早い時期から専門的な学びに取り組める環境整備は必要ではないか。
㉓	高校在籍中に成年年齢に達する生徒もいるので、高校での消費者教育の重要性を感じている。

※発言順不同